

# 「リテラシー形成メディア」 としての「おもちゃ絵」その1

日本体育大学図書館所蔵品から

第141回 全国大学国語教育学会世田谷大会（オンライン）

2021年10月17日（日曜日）

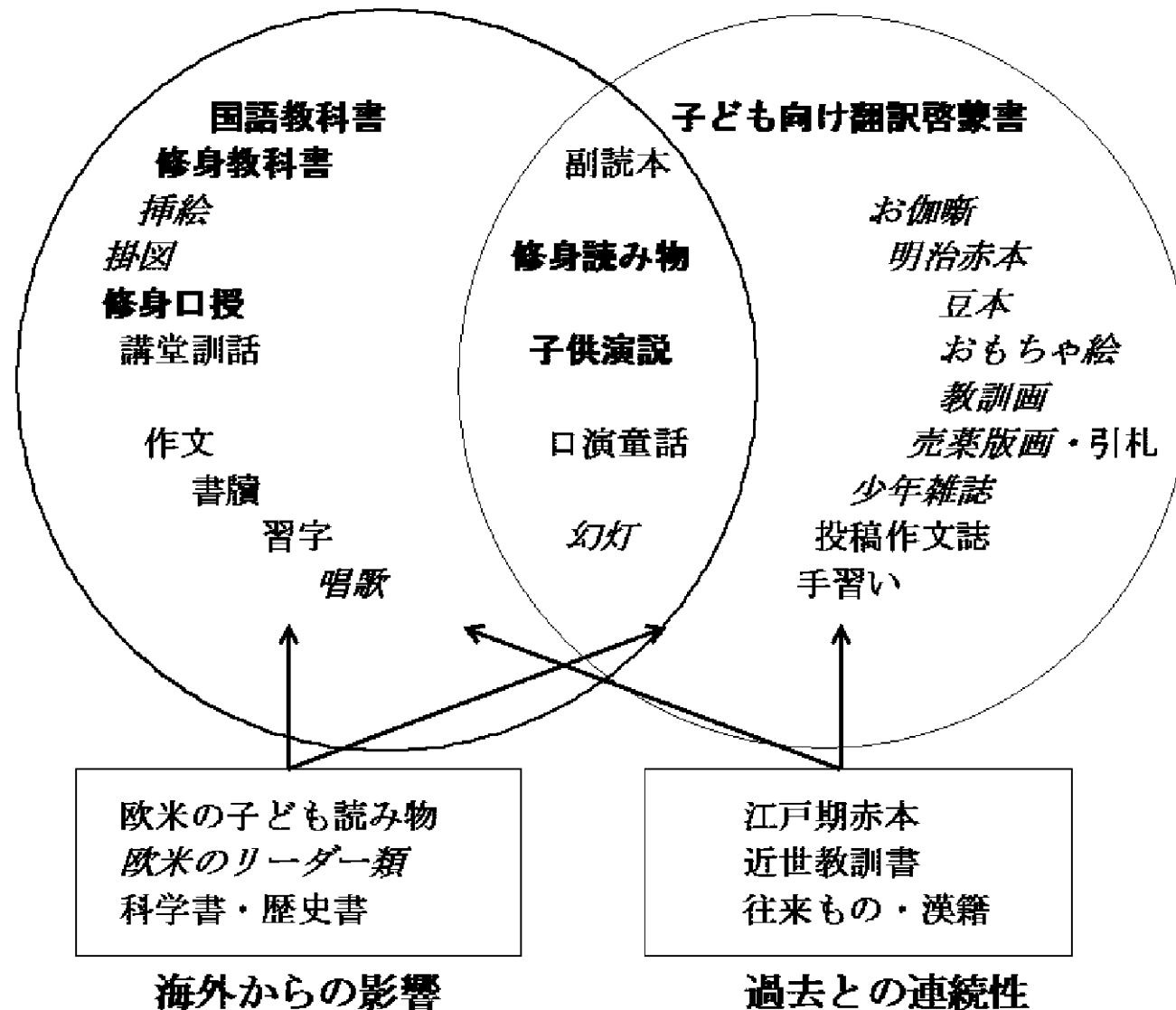
13：50～

## 明治期の子どもを対象にした主なりテラシー形成メディア

### リテラシー形成メディア

国語教育を展開する上で、中心に置かれる国語教科書（読本）は、それを取り巻く各種の児童読み物類や少年雑誌、児童玩具、あるいは様々な言語文化との相互交渉の中で発展してきた。とりわけ、文化変動の大きかった明治期には、言文一致運動や、出版文化活動、あるいはそれを取り扱う製造業者や流通業者の経済活動などとのダイナミックな交流の中で国語教科書の内容も規定され、印刷製本されて流通した。

学校教育における読み書き活動 ⇔ 学校外の読み書き活動

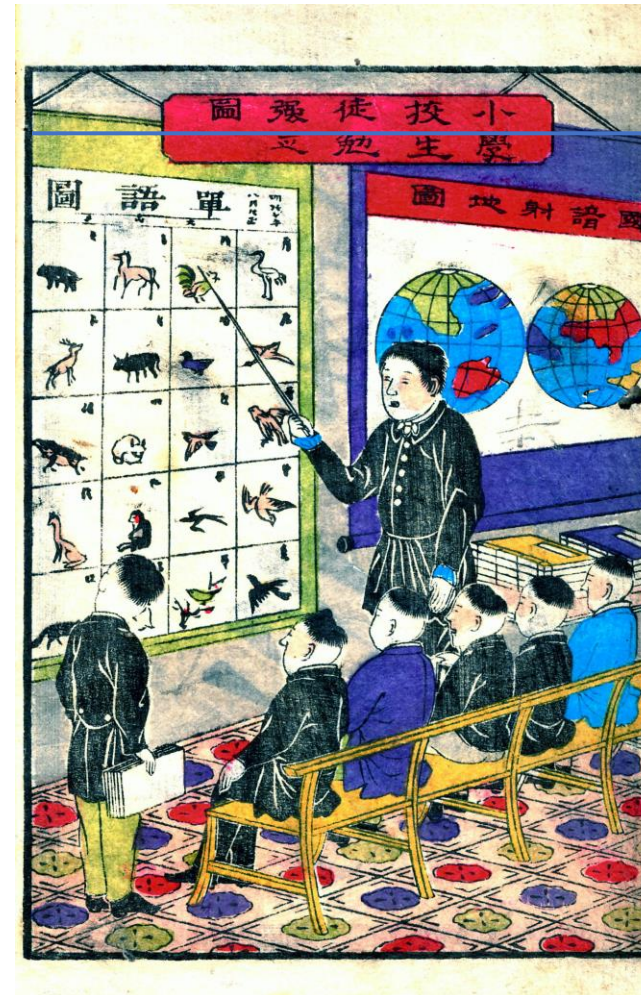


(本論考で中心的に取り上げた教育伝達メディア＝ゴジック体で示した)



# 近代教育の出発『小学生徒必携』などから明治8年

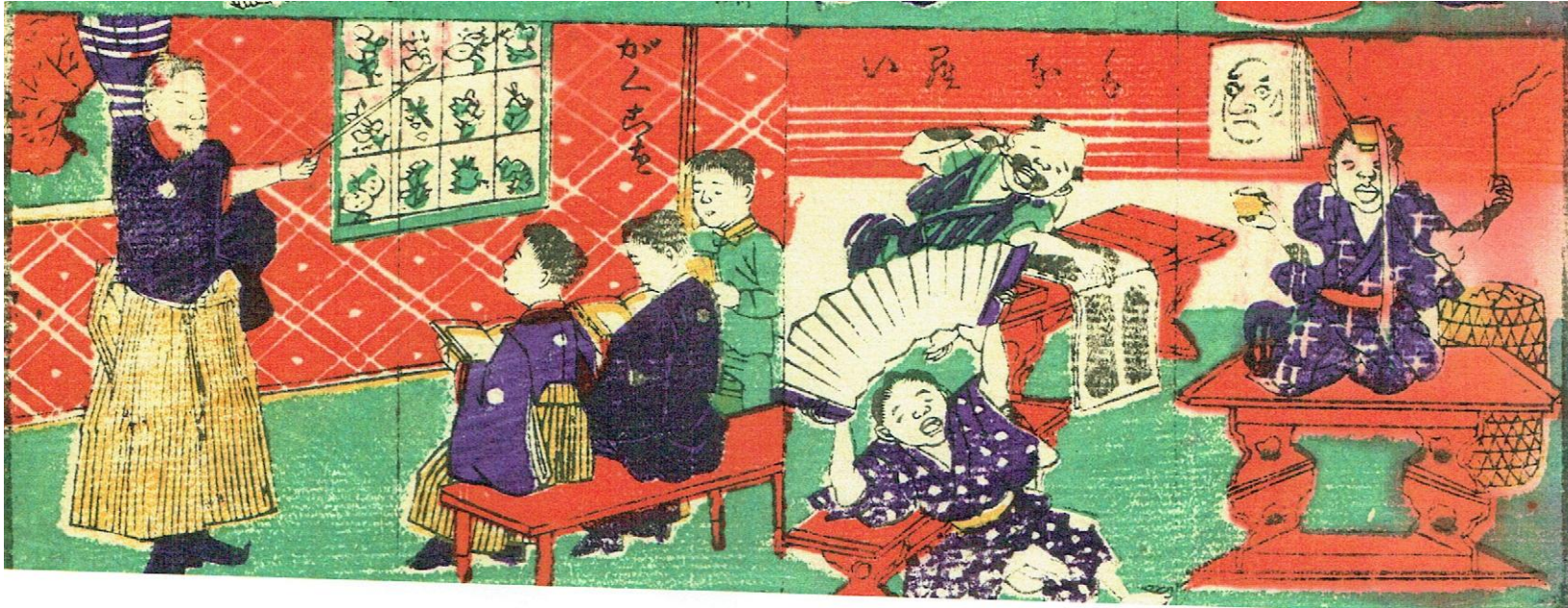
近代的 = 効率的・一斉指導・均質・平等





# 「個別指導」から「一斉指導」へ

文明開化



## 左：がくこを＝学校

一斉指導。同年齢集団。教師と生徒が正面から正対する。公共の椅子と机。共通教材の使用。国家（社会）に有用な人材を育成する装置としての仕組み。

## 右：手習い＝寺子屋

個別指導。異年齢集団。教師と生徒は正対しない。個別（段階に合った）教材の使用。私的に用意する机。社会生活を営むための個人生活手段の獲得。



# 日本の掛図は、アメリカのチャートの模倣

その際に、様々な問題が生じる。

1. 日本語と欧米諸語（英語）との体系の違いに起因する問題  
⇒主語と動詞。関係代名詞。
2. 文字システム（漢字・仮名）の歴史的な経緯に起因する問題  
⇒漢語と和語。変体仮名。
3. 言語使用階層＝身分差・職業差などの違いに起因する問題  
⇒漢文（白文）と、和文使用層。仮名文化。敬語。
4. 方言と標準的な言語の状況の違いに起因する問題  
⇒江戸ことば。関西ことば。各地域方言。
5. 教育観や子ども観の違いに起因する問題。  
⇒児童中心主義、活動主義。実用主義。精神主義。



# School and Family Charts No.1 全22図

- 1. Elementary: Familiar objects represented by words and pictures. (絵と単語／母音の発音と綴り)
- 2. Reading: First Lessons. (絵と単語／連語)
- 3. Reading: Second Lessons. (文字のみ／文)
- 4. Reading: Third Lessons. (絵と文／対話)
- 5. Reading: Fourth Lessons. (絵と文／長めの対話)
- 6. Reading: Fifth Lessons. (絵と文／長めの対話)
- 7. Elementary Sounds. (文字のみ／発音記号)
- 8. Phonic Spelling. (文字のみ／発音記号)
- 9. Writing. (絵と文字／筆記体)

10図以下は、図形や植物図・動物図など

国立公文書館蔵 以下のコマでコピーを数点紹介。原寸＝92×122cm



## School and Family Charts No.1

「入門期の言語指導の原理」の確認



/kæp/

発音と文字の関係の理解

/féis/

/kwéil/

/á :m/

/tʃéə/

/kl ó:/ つめ

/swá(:)n

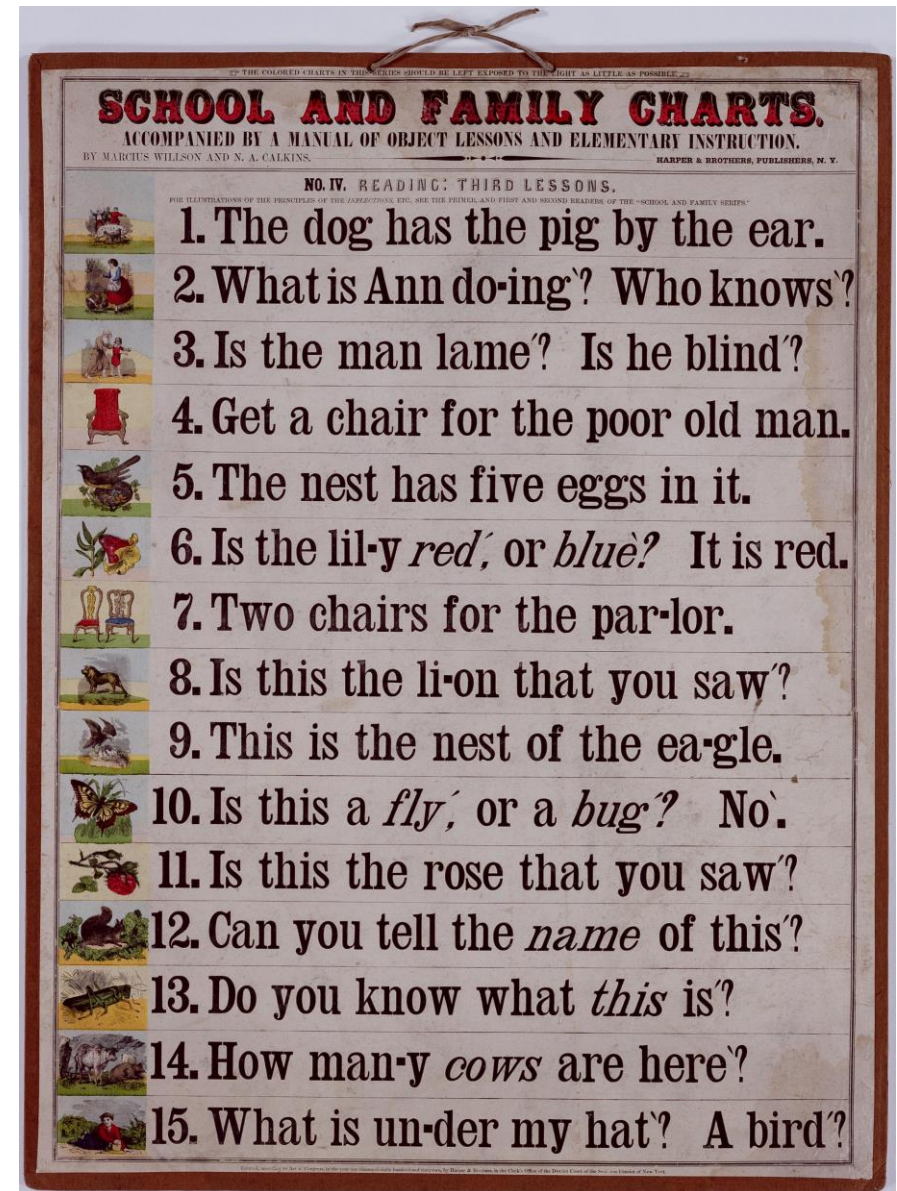
Elementary: Familiar objects represented by words and pictures. (絵と**単語**／母音の発音と綴り)

この指導過程はいわゆる「Word Method」





既習単語の連接 修飾関係









既習単語を使った文の構成



SCHOOL AND FAMILY CHARTS.  
ACCOMPANIED BY A MANUAL OF OBJECT LESSONS AND ELEMENTARY INSTRUCTION.  
BY MARCUS WILSON AND N. A. CALKINS.  
NEW YORK: H. DODGE, 1870.

NO. VI. READING: FIFTH LESSONS.

1. Lu-cy, can the dog read the let-ters? Can you? ABCDEFGH IJKLMNOPQRSTUVWXYZ.

2. Are these *tame* cats? How man-y are there? Three are on the floor; but one is sit-ting on the ta-ble. Which one is black?

3. Ma-ry! Ma-ry! do not step on it. Let me rake off the weeds and the dirt; for then it will grow bet-ter.





































4. Has she a *cloak* in her arms? Did you say *cloak*, or *coat*? It is not a *cloak*, nor a *coat*: it is a *shawl*. Is it a *red* shawl?

5. Is it a book, or a slate? It is not a *slate*: it is a *book*. Do you know what is *in* the book?

6. What is pus-sy do-ing? She is try-ing to get the cream out of the cream-jug. How *wise* she looks!

SCHOOL AND FAMILY CHARTS.  
ACCOMPANIED BY A MANUAL OF OBJECT LESSONS AND ELEMENTARY INSTRUCTION.  
BY MARCUS WILSON AND N. A. CALKINS.  
NEW YORK: H. DODGE, 1870.

NO. XII. FORMS AND SOLIDS.

|   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|
|    |    |    |    |    |    |
|    |    |    |    |    |    |
|    |    |    |    |    |    |
|    |    |    |    |    |    |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |



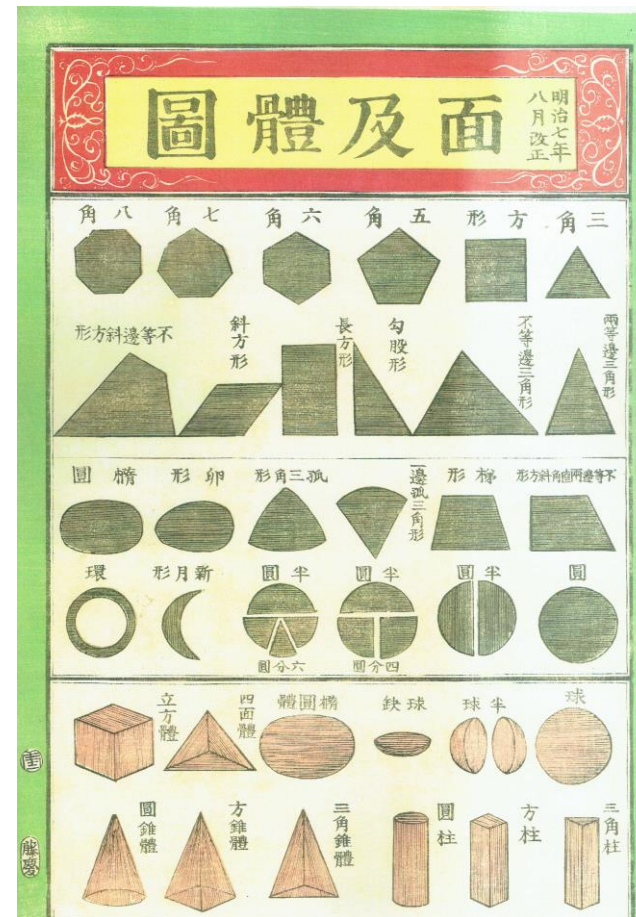




これを模倣したものが日  
本の掛図。(単語図・連語図以外を例  
示した。)

これらも民間から縮小して印刷され  
たり、おもちゃ絵として販売されたり  
もしている。

国立公文書館蔵



一枚絵 (おもちゃ絵)

日本ではアメリカのチャートの考え方を  
入門期言語教材の参考にした。

1. （発音指導）あるいは、仮名文字指導
2. 単語図（第一・第二）仮名遣いの指導
3. 単語図 単語と事物とのマッチング（第三図から第八図まで）  
⇒「訓蒙図彙」「和漢三才図会」などの「部門」の発想と類似
4. 連語図（第一図から第十図まで）
5. その後、『小学読本』（読みもの集）へと展開していく。

本発表では、「2. 」と「3. 」が中心になる。



掛図の第一枚目と第二枚目（前コマの「1.（発音指導）あるいは、仮名文字指導」に相当）

論点：1. 「五十音図」と「いろは図」どちらを先に教えるか？ 指導順

論点：2. 「五十音図」なのか「カタカナ表」か？  
音声指導と（文字指導）

論点：3. 「い」と「」と「す」と「・」  
標準字体の選定（変体仮名）



両者の掛図はともに愛媛県・開明学校蔵  
『文部省掛図総覧』東京書籍、より



| <div> <div>明治七年<br/>八月改正</div> <div>第一</div> <div>單語圖</div> <div>文部省</div> </div>          |  |  |   |  |
|--|--|--|---|--|
| 井  | ヒ  | イ  | 井   | イ  |
| 居鳥<br>  | 貝<br>   | 櫂<br>   | 井<br>    | 絲<br>   |
| 莞<br>   | 鹽<br>   | 燭臺<br>  | 豕<br>    | 犬<br>   |
| 紫陽花<br> | 篩<br>   | 筭<br>   | 蝾螈<br>   | 錨<br>   |
| 工  | へ  | 工  | 工   | 工  |
| 轆轤<br> | 鼎<br>  | 榮螺<br> | 繪馬<br>  | 鰕<br>  |
| 杖<br> | 家<br> | 笛<br> | 繪具<br> | 枝<br> |
| 机<br> | 苗<br> | 稗<br> | 槐<br>  | 榎<br> |

| <div> <div>明治七年<br/>八月改正</div> <div>第二</div> <div>單語圖</div> <div>文部省</div> </div>         |  |  |  |  |
|---|--|--|--|--|
| ホ   | マ  | マ  | オ  | ハ  |
| 顔<br>    | 竿<br>   | 斧<br>     | 帶<br>       | 瓦<br>  |
| 酸漿<br>   | 魚<br>   | 鴛鴦<br>    | 狼<br>       | 榲桲<br> |
| 牽牛花<br>  | 芭蕉<br>  | 折本<br>    | 織物<br>      | 鋏<br>  |
| ツ   | ズ  | ヂ  | ジ  |  |
| 鶉<br>   | 雀<br>  | 紅葉<br>   | 雉子<br>    |  |
| 鯰<br>  | 鼠<br> | 鰻<br>   | 虹<br>    |  |
| 水吞<br> | 鈴<br> | 藤の花<br> | 富士の山<br> |  |



第三 (果物・野菜) 第四 (家具・食器) 第五 (文具・日用品) 第六 (衣類・人体部分) 第七 (虫類・植物) 第八 (鳥・獸・魚)

明治七年 八月改正

第三 單語圖

文 部 省

|    |    |    |     |    |
|----|----|----|-----|----|
| 桃  | 蜜柑 | 茄子 | 筍   | 蓮根 |
| 栗  | 石榴 | 大豆 | 草   | 薑  |
| 梨  | 葡萄 | 胡瓜 | 蘿蔔  | 芋  |
| 柿  | 枇杷 | 南瓜 | 胡蘿蔔 | 牛蒡 |
| 林檎 | 稻  | 西瓜 | 蕪菁  | 葱  |

明治七年 八月改正

第五 單語圖

文 部 省

|   |    |     |     |    |
|---|----|-----|-----|----|
| 水 | 笛筒 | 太鼓  | 團扇  | 傘  |
| 筆 | 椅子 | 行燈  | 算盤  | 笠  |
| 墨 | 鏡  | 提燈  | 時計  | 下駄 |
| 紙 | 剪刀 | 煙草盆 | 磁石  | 雪踏 |
| 硯 | 琴  | 煙管  | 寒暖計 | 履  |



明治七年  
八月改正

# 連語圖

文部省

神人 天地 萬物 主宰 善道 信義 祖父  
祖母 父母 伯父 叔父 伯母 叔母  
親子 兄弟 姊妹 親愛 友愛

神の天地の主宰にして 人の萬物の靈なり○  
善道を以て 身を脩め 信義を  
以て 人に交る○親子の間へ親  
愛を主とし 兄弟の際へ友愛を  
專とす○親の父を 祖父といひ 親  
の母を 祖母といふ○親の兄弟を  
伯父叔父といひ 親の姊妹を 伯母叔母といふ



第一連語図

タテ74cm・ヨコ56cm 開明学校所蔵

明治七年  
八月改正

# 連語圖

文部省

學校 書物 手習 算術 事物 文字 授業  
午前 午後 運動 遊歩  
學校に出くは 書物を讀み 又手習をべし○書物  
は事物の理を知り 手習は 文字の形を學ぶ○  
授業の始は 午前七時 授業の  
終は 午後三時なり○讀み書きの  
外は 算術を學ぶべし○遊歩を  
爲すは 運動の爲○運動を爲すは  
氣を散り 體を養ふため○運  
動をいふは 又書物を讀み 手習し 算術を學ぶ



第二連語図

タテ74cm・ヨコ55.5cm 開明学校所蔵



1. 「重要語句（単語）」を学んでから、文が提出されている。単語→文という順序性

\*しかし、「単語図（第一から第八）」までの単語とはほとんど無関係

⇒アメリカのチャートのように、既習の単語が、次の学習の「文」の中に何度も登場するという反復性はない。

2. 「頭注」あるいは「本文に先立って難語句（漢字）」を提出する方法は、在来日本の教育でも行われている。

\*「連語図」そのものは、「おもちゃ絵」の中には、あまり登場しないようだ。「連語図」の総合的な検討はいまだ十分には行われていない。

以下のコマから、「単語図」の話題に戻る。







## 官版 單語図

第一・第二は「仮名遣い」

- 「第一単語図」には、「イ」と「井」, 「エ」と「工」が語頭にくる12単語の漢字と絵, また「イ」と「ヒ」と「井」, 「エ」と「へ」と「工」が語尾につく18単語の漢字と絵とが示されている。
- 発音指導ではなく文字指導
- 付載された文字は「櫓」や「蝾螈」などかなり難解な漢字も採用されている。このような難しい漢字がなぜ初等教育の冒頭に登場しているのか。
- 単語図はすべて同様。絵と音声とのマッチング？

# 入門期の音声と文字指導 米国と日本

## チャート・Wordメソッド

- 単語（意味のひとまとまり）の指導から始まる。
- 日常生活になじみにあるモノを取り上げる
- 同じ単語を文脈の中で確認する
- 「記号形式（言語形式）」と「庶物指教（言語内容）」とを同時に学ぶ。
- 本格的な庶物指教は、文字指導が終わってから。単語図と同じ

## 単語図・letterメソッド

- 単語図の前に、五十音図と平仮名の指導がある。  
→発音と（仮名文字指導）
- 単語図でねらうのは「チャート」の模倣  
音声と文字との対応（仮名遣い）  
→同じ「音」を別の文字で書くこと  
実際には「榎」や「槐」のように日常生活から遠いものもある。
- この後の単語図（第二・第三）の内容は「もの尽くし（庶物指教）」へ チャートと同じ

音声体系・文字体系・文法体系の相違 → それを踏まえた指導の手立てと順序性の構築へ



# 「おもちゃ絵（玩具絵）」とは？

おもちゃ絵は、絵双六やカルタと共に、近世後期から近代にかけて製作・出版された千代紙風の図鑑的な知育玩具です。

同じ教育資料といっても教科書的な往来物と異なって、おもちゃ絵は、遊戯用の玩具そのものとして楽しんだり、遊びながら日常生活に必要な知識を習得したりするものでした。

「東京学芸大学附属図書館」より

<https://library.u-gakugei.ac.jp/digitalarchive/omochatop.html>

大きさは、ほぼ「わら半紙大」 B5版に近くやや大きめ。

和紙に印刷されている。価格は、三銭ぐらいが標準。

おもちゃ絵に取り上げられた「単語図」

第一 単語図



第二 単語図



第三 単語図



第四 単語図



次は 部分拡大



# 單語圖

# 單語圖

|   |  |   |  |  |  |
|---|--|---|--|--|--|
| 水   | フ  | 才   | ハ  | イ  |  |
| 顔<br>    | 竿<br>   | 芥<br>    | 帶<br>   | 瓦<br> | 慈姑<br> |
| 鰐<br>    | 魚<br>   | 蟹<br>    | 蝦<br>   | 櫛<br> | 告<br>  |
| 蘭<br>    | 蘭<br>   | 水新<br>   | 物<br>   | 鋏<br> | 鯛<br>  |
| 人   |  | 天   |  |  |  |
| 鶴<br>    | 雀<br>   | 葉紅<br>   | 雉子<br>  |  |  |
| 鰐<br>   | 鼠<br>  | 踏<br>   | 虹<br>  |  |  |
| 水吞<br> | 鈴<br> | 藤花<br> | 山<br> |  |  |

|  |  |  |  |  |
|--|--|--|--|--|
| 井  | 上  | イ  | 井  | イ  |
| 鳥居<br>  | 貝<br>   | 煙<br>   | 井<br>   | 繭<br>   |
| 完<br>   | 盤<br>   | 燭臺<br>  | 豚<br>   | 天<br>   |
| 花<br>   | 節<br>   | 算<br>   | 蝶<br>   | 鉗<br>   |
| 工  |  |  |  |  |
| 輪<br>   | 靴<br>   | 鼎<br>   | 葵<br>   | 民<br>   |
| 杖<br>  | 家<br>  | 笛<br> | 鈴<br> | 杖<br>  |
| 机<br> | 苗<br> | 秤<br> | 槐<br> | 便<br> |

かなり正確に縮小印刷されている。



これらも、かなり正確な縮小印刷版のようにみえる。

|   |   |   |   |
|---|---|---|---|
| 千 | 八 | 四 | ● |
| 万 | 九 | 五 | 一 |
| 億 | 十 | 六 | 二 |
|   | 百 | 七 | 三 |

| ハ |   | 音 |   | 濁 |  |
|---|---|---|---|---|--|
| ハ | バ | タ | ザ | カ |  |
| ヒ | ビ | チ | ジ | ギ |  |
| フ | ブ | ツ | ズ | ク |  |
| ヘ | ベ | テ | ゼ | ケ |  |
| ホ | ボ | ト | ゾ | コ |  |

|    |    |    |    |   |
|----|----|----|----|---|
| 五  | あ  | ら  | ち  | い |
| 無敵 | 阿蘇 | 也孫 | 代志 | 運 |
| ひ  | さ  | む  | た  | ろ |
| 秘  | 佐  | 万  | り  | 乃 |
| も  | き  | け  | ぬ  | は |
| 也  | 能  | 付  | 女  | 波 |
| 世  | 伊  | 乃  | に  | 仁 |
| せ  | め  | の  | を  | ほ |
| す  | 無  | 此  | 走  | 保 |
| す  | み  | に  | 收  | 一 |
| 人  | 文  | 悅  | わ  | 唐 |
| と  | 美  | 精  | か  | と |
|    | 去  | 久  | 念  |   |

|    |    |    |    |    |    |    |    |   |
|----|----|----|----|----|----|----|----|---|
| 九  | 八  | 七  | 六  | 五  | 四  | 三  | 二  | 一 |
| 十  | 九  | 八  | 七  | 六  | 五  | 四  | 三  | 二 |
| 十一 | 十  | 九  | 八  | 七  | 六  | 五  | 四  | 三 |
| 十二 | 十一 | 十  | 九  | 八  | 七  | 六  | 五  | 四 |
| 十三 | 十二 | 十一 | 十  | 九  | 八  | 七  | 六  | 五 |
| 十四 | 十三 | 十二 | 十一 | 十  | 九  | 八  | 七  | 六 |
| 十五 | 十四 | 十三 | 十二 | 十一 | 十  | 九  | 八  | 七 |
| 十六 | 十五 | 十四 | 十三 | 十二 | 十一 | 十  | 九  | 八 |
| 十七 | 十六 | 十五 | 十四 | 十三 | 十二 | 十一 | 十  | 九 |
| 十八 | 十七 | 十六 | 十五 | 十四 | 十三 | 十二 | 十一 | 十 |

|    |    |     |      |
|----|----|-----|------|
| I  | II | III | IV   |
| V  | VI | VII | VIII |
| IX | X  | XI  | XII  |
| L  | C  | D   | M    |

|   |   |   |
|---|---|---|
| 0 | 1 | 2 |
| 3 | 4 | 5 |
| 6 | 7 | 8 |
| 9 |   |   |































學校 書物 手習 算術 事物 文字 授書 午前  
午後 運動 遊歩  
連 學校へ出ては書物を讀み又手習ふ。書物も  
事物の理を知り、手習ふ文字の形を學ぶ。授書は始  
午用七時 授業の終へ 午後三時なり。讀み書き  
算の外、算術を學ぶ。遊歩を爲さば運動の  
たの運動を爲さば氣を散り體を養ふ。運動  
動をいれり又書物を讀み手習ひ算術を學
































神人天照 萬物主宰 善道 信義 祖父 祖母  
 父母 伯父 叔父 伯母 叔母 親子 兄弟  
 姊妹 親愛 友愛  
 神人 天地的主宰 人とも萬物の主宰なり 善道  
 を以て 身を爲め 信義を以て 人々を導く 親子の面々  
 親愛を主として 兄弟の際し 友愛を尊とす 親  
 の父を祖父といひ 親の母を祖母といふ 親の兄弟  
 を 伯父叔父といひ 親の姊妹を 伯母叔母といひ

|     |     |     |     |     |     |     |    |   |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|---|
| 九   | 八   | 七   | 六   | 五   | 四   | 三   | 二  | 一 |
|     |     |     |     |     |     |     | 四  | 二 |
|     |     |     |     |     |     | 九   | 六  | 三 |
|     |     |     |     |     | 十六  | 十二  | 八  | 四 |
|     |     |     |     | 廿五  | 廿   | 十五  | 十  | 五 |
|     |     |     |     |     | 廿四  | 十八  | 十二 | 六 |
|     |     |     | 卅六  | 卅四  | 卅一  | 廿八  | 廿四 | 七 |
|     |     | 四十二 | 四十二 | 卅五  | 卅二  | 廿九  | 廿六 | 八 |
|     |     | 四十九 | 四十八 | 四十四 | 四十  | 卅七  | 卅六 | 九 |
| 八十二 | 六十四 | 五十六 | 五十三 | 四十九 | 四十六 | 四十三 | 四十 |   |

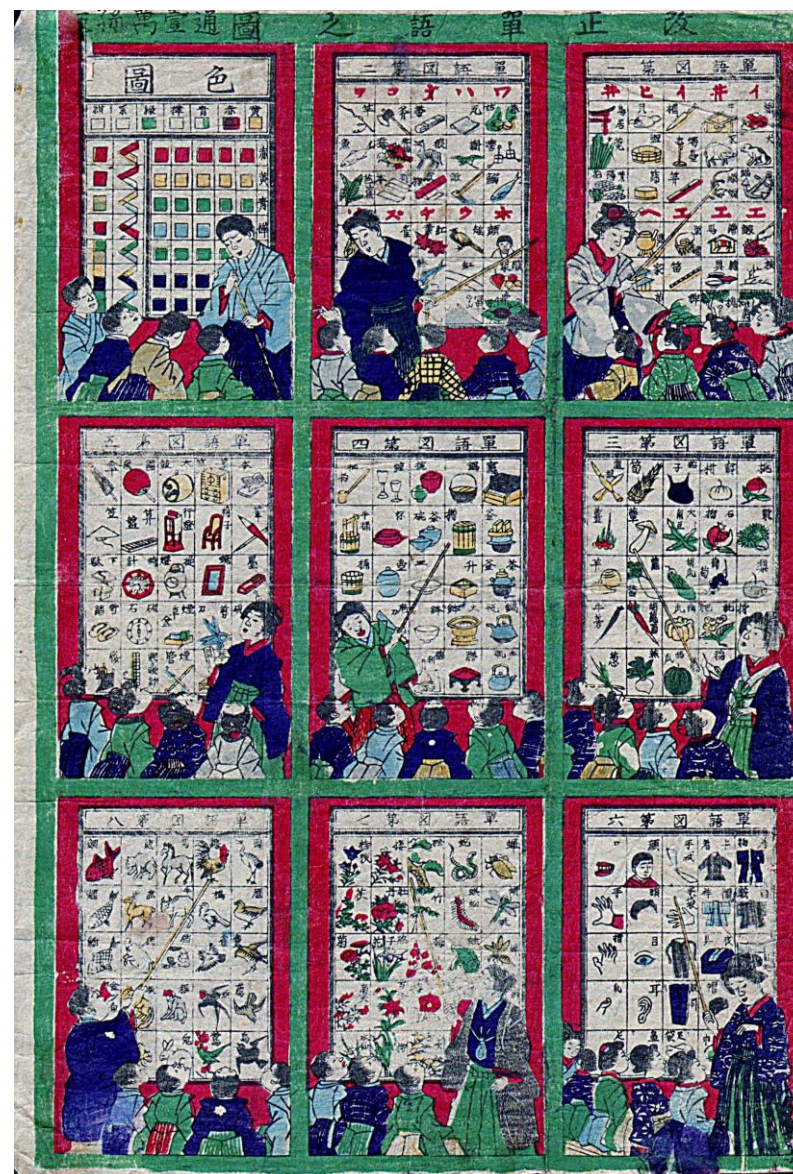
[illegible]

|          |    |    |    |    |    |    |    |   |   |
|----------|----|----|----|----|----|----|----|---|---|
| 圖 九九 算 如 |    |    |    |    |    |    |    |   |   |
| 九        | 八  | 七  | 六  | 五  | 四  | 三  | 二  | 一 |   |
| 十        | 九  | 八  | 七  | 六  | 五  | 四  | 三  | 二 | 一 |
| 十一       | 十  | 九  | 八  | 七  | 六  | 五  | 四  | 三 | 二 |
| 十二       | 十一 | 十  | 九  | 八  | 七  | 六  | 五  | 四 | 三 |
| 十三       | 十二 | 十一 | 十  | 九  | 八  | 七  | 六  | 五 | 四 |
| 十四       | 十三 | 十二 | 十一 | 十  | 九  | 八  | 七  | 六 | 五 |
| 十五       | 十四 | 十三 | 十二 | 十一 | 十  | 九  | 八  | 七 | 六 |
| 十六       | 十五 | 十四 | 十三 | 十二 | 十一 | 十  | 九  | 八 | 七 |
| 十七       | 十六 | 十五 | 十四 | 十三 | 十二 | 十一 | 十  | 九 | 八 |
| 十八       | 十七 | 十六 | 十五 | 十四 | 十三 | 十二 | 十一 | 十 | 九 |

|  |  |   |   |  |
|--|--|---|---|--|
| 二 第 圖 語 單  |  |   |   |  |
| ヲ  | ヲ  | 才   | ハ   | ワ  |
|  竿    |  芥    |  帶     |  瓦     |  枯藤   |
|  魚   |  鶯鶯  |  狼    |  榭    |  鐘   |
|  芭蕉 |  折本 |  織物  |  鍬   |  鯽  |
| ヅ  | ズ  | ヅ   | シ   | 六  |
|  鶉  |  雀  |  紅葉  |  虹   |  顔  |
|  鰻  |  鼠  |  鱈   |  富士山 |  酸漿 |
|  水呑 |  鈴  |  藤の花 |  雉   |  幸  |

| 單語圖一  |  |   |  |   |
|---|--|---|--|---|
| 井   | 匕  | 人   | 井  | 人   |
|  鳥居<br> |  貝<br> 權 |  井   |  人    |   |
|  莞  |  望   |  燭臺 |  豕   |  犬  |
|  紫陽花   |  砂陶   |  筭 |  蟒蛇 |  錨 |
| 工   | 人  | 立   | 工  | 工   |
|  轆轤  |  鼎  |  螺 |  馬  |  鱈 |
|  枝   |  家  |  笛 |  具  |  枝 |
|  机   |  苗  |  稗 |  槐  |  榎 |



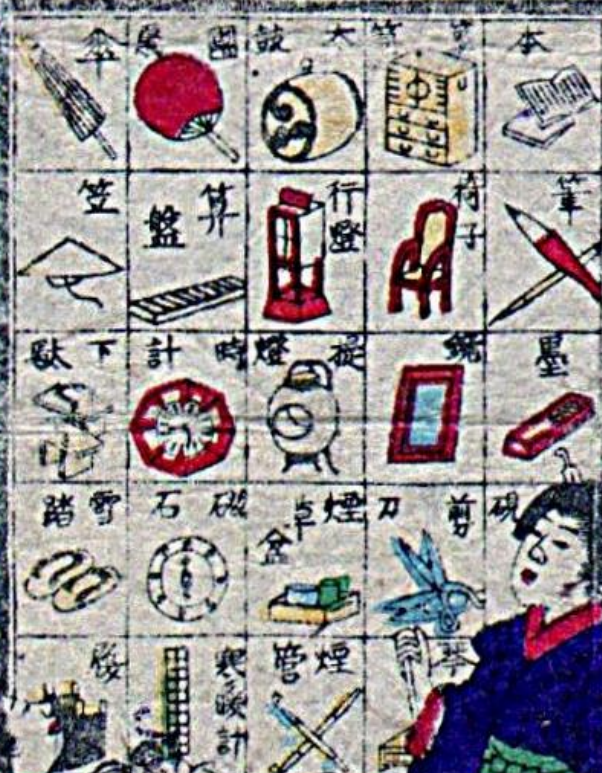
[illegible]

授業風景の「おもちゃ絵」  
細密版





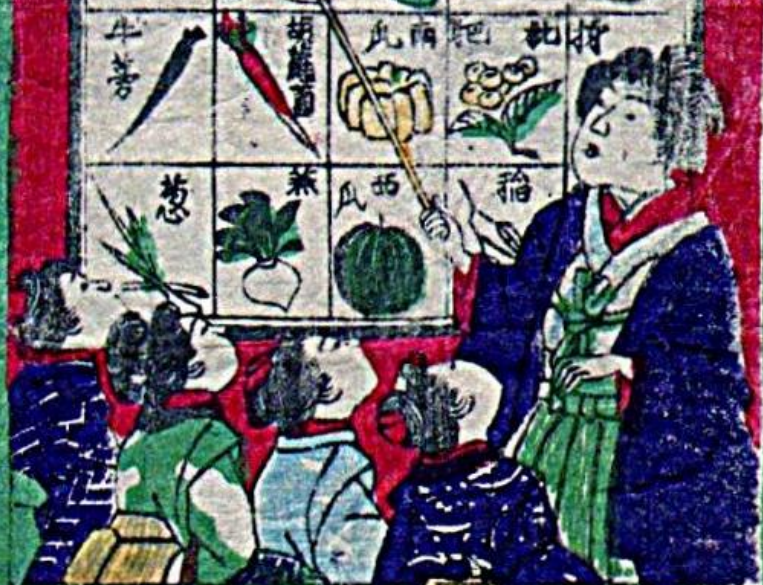
單語圖第三



單語圖第四



單語圖第五







「童蒙教授図会」振り仮名あり・カボチャ（片仮名表記）

万屋孫兵衛が版元 成人のための観賞用か？



# 児学教導單語之図

肉亭夏良（にくていなつら）

戯作者 憎ていな面



変体仮名を使った事物の説明がつけてある。



本：もろもろのはなしあり（諸々の話あり）

筆：しよえをかく（書絵を書く）

墨：ゆえんにてつくる（油煙にて作る）

？このおもちゃ絵だけが独自に解説をつけたのか？



加算九九の圖

|   |   |    |    |    |    |    |    |    |
|---|---|----|----|----|----|----|----|----|
| 一 | 二 | 三  | 四  | 五  | 六  | 七  | 八  | 九  |
| 二 | 三 | 四  | 五  | 六  | 七  | 八  | 九  | 十  |
| 三 | 四 | 五  | 六  | 七  | 八  | 九  | 十  | 十一 |
| 四 | 五 | 六  | 七  | 八  | 九  | 十  | 十一 | 十二 |
| 五 | 六 | 七  | 八  | 九  | 十  | 十一 | 十二 | 十三 |
| 六 | 七 | 八  | 九  | 十  | 十一 | 十二 | 十三 | 十四 |
| 七 | 八 | 九  | 十  | 十一 | 十二 | 十三 | 十四 | 十五 |
| 八 | 九 | 十  | 十一 | 十二 | 十三 | 十四 | 十五 | 十六 |
| 九 | 十 | 十一 | 十二 | 十三 | 十四 | 十五 | 十六 | 十七 |




乗算九九の圖

|   |    |    |    |     |     |     |     |     |
|---|----|----|----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 一 | 二  | 三  | 四  | 五   | 六   | 七   | 八   | 九   |
| 二 | 四  | 六  | 八  | 十   | 十二  | 十四  | 十六  | 十八  |
| 三 | 六  | 九  | 十二 | 十五  | 十八  | 廿一  | 廿四  | 廿七  |
| 四 | 八  | 十二 | 十六 | 廿   | 廿四  | 廿八  | 卅二  | 卅六  |
| 五 | 十  | 十五 | 廿  | 廿五  | 卅   | 卅五  | 四十  | 四十五 |
| 六 | 十二 | 十八 | 廿四 | 卅   | 卅六  | 四十二 | 四十八 | 五十四 |
| 七 | 十四 | 廿一 | 廿八 | 卅六  | 四十二 | 四十九 | 五十六 | 六十三 |
| 八 | 十六 | 廿四 | 卅二 | 四十  | 四十八 | 五十六 | 六十四 | 七十二 |
| 九 | 十八 | 廿七 | 卅六 | 四十五 | 五十四 | 六十三 | 七十二 | 八十一 |

文部省 御藏板 小學入門畧解

井出猪之助 閱 若林長榮 譯述

第一單語

|   |   |  |
|---|---|--|
|  |  |  |
| <p>糸は三種有り。絹糸、木綿糸、麻糸なり。絹糸は繭から、木綿糸は綿より、麻糸は麻から造れり。糸の用は広大にして織物または縫い仕事に用ゆ。</p>           | <p>犬は家畜の養ひて夜を守らる。盗賊の戒とて亦獵犬とて獵を便ふ。犬ハ能其畜主を知り送迎を洋犬を生来小さく佛林豹の如し。</p>                    | <p>錨を鐵を鍛えて造る。船の港に碇泊する時留るを乃る。錨綱と綱と鎖の二種あり。和船は網成用の西洋形を鐵鎖を用う。</p>                      |

『小学入門畧解』 單語図などの指導書 (類書多数あり)

「糸」に関する情報の提供

糸に三種有り。絹糸、木綿糸、麻糸なり。絹糸は繭から、木綿糸は綿より、麻糸は麻から造れり。糸の用は広大にして織物または縫い仕事に用ゆ。




































| 漢字(ヨミ)    | 口合    | 図        |
|-----------|-------|----------|
| 絲(イト)     | いと    | お嬢さん     |
| 犬(イヌ)     | いぬ    | 家を去る人物   |
| 錨(イカリ)    | いざり   | 歩行困難な人物  |
| 井(井ド)     | きど    | 芝居の木戸口   |
| 豕(井ノコ)    | しごと   | 針仕事      |
| 蠟蜋(井モリ)   | しばり   | 絞り染め     |
| 櫂(カイ)     | かい    | 痒い(孫の手)? |
| 燭臺(ショクダイ) | しょくたい | 胃もたれ(食滞) |
| 筭(カフガイ)   | ほうばい  | 朋輩       |
| 貝(カヒ)     | たい    | 鯛        |
| 盥(タラヒ)    | あらい   | 洗い(湯浴み)  |
| 篩(フルヒ)    | ふるぎ   | 古い着物     |

庶民たちの間では、官版「単語図」は周知の存在だった。つまり、この「新版単語図口合」を楽しむ人々は、官版の「単語図第一」に「絲」の漢字と糸巻きの図が描かれていることをよく知っていたのである。  
⇒「単語図」への庶民の強い関心を証明している。

明治九年五月出版

# 新 版 單 語 圖 口 合

上

|  |  |  |  |  |  |
|--|--|--|--|--|--|
| 兄家<br>えい<br>    | 絲槐<br>めん<br>  | へび鰻<br>うなぎ<br>  | あらい盥<br>あらう<br> | 蠟蜋<br>あぶり<br> | 絲<br>いと<br>   |
| や苗<br>えい<br>    | 蠟榮<br>なう<br>  | げと枝<br>えだ<br>   | 櫂<br>う<br>      | 犬<br>いぬ<br>   | 錨<br>いかり<br>  |
| へとも鞆繪<br>うけ<br> | うけ<br>うけ<br>  | 搔せのび<br>ねま<br>  | 居島<br>とり<br>    | 燭臺<br>あぶり<br> | 錨<br>いかり<br>  |
| つけ杖<br>えい<br>  | ち御<br>えい<br> | ね馬<br>えい<br>   | 莞<br>えい<br>    | 不筭<br>えい<br> | 井<br>きど<br>  |
| 机<br>えい<br>   | 鼎<br>えい<br> | めのう<br>えい<br> | 紫陽花<br>えい<br> | 貝<br>えい<br> | 豕<br>えい<br> |

板元赤志

下



# 単語篇童画解

わらべえとき

表紙

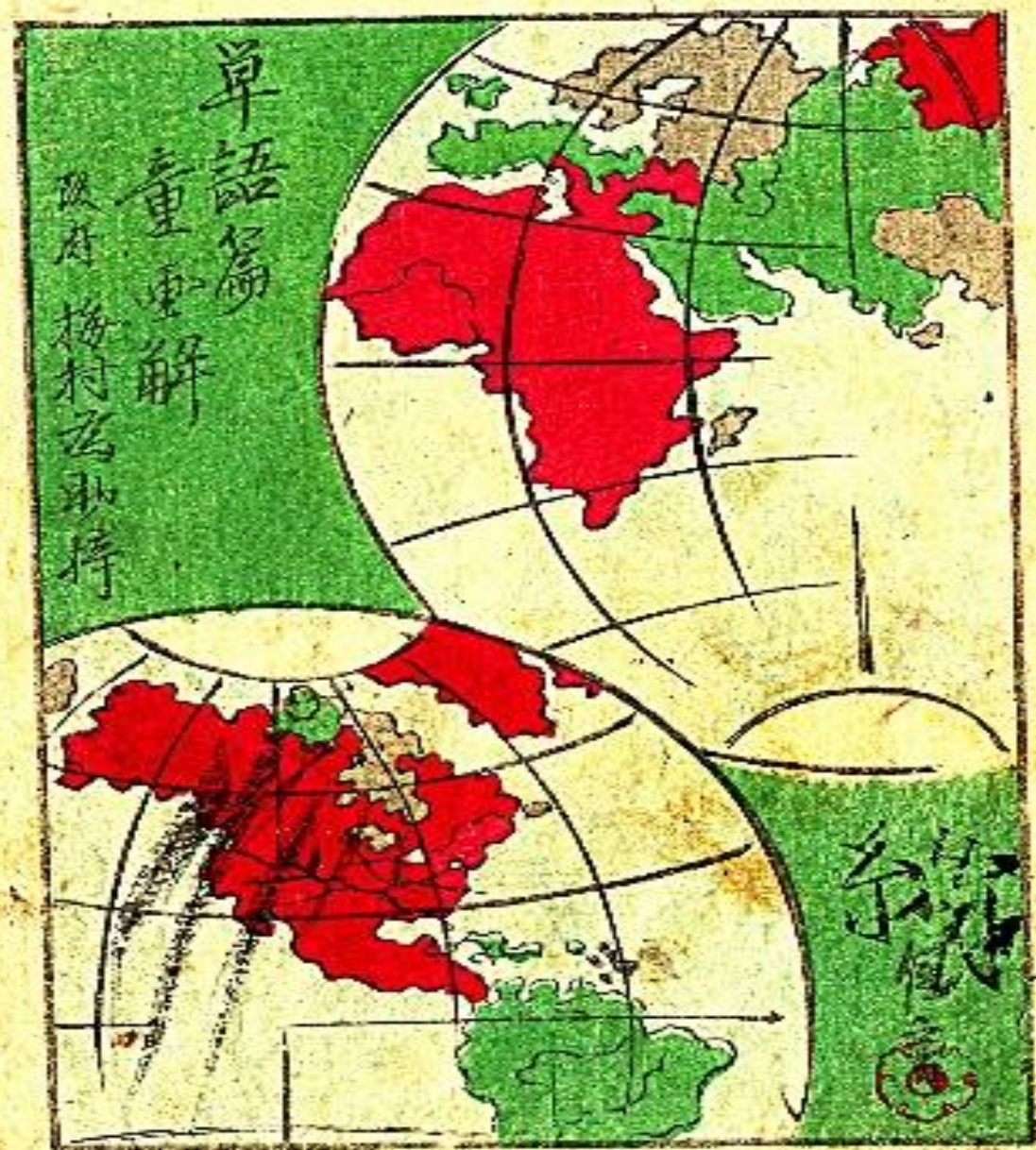
いわゆる 豆本・袖珍本



次は、表紙裏と第一頁



以下は 様々なおもちゃ絵と単語図



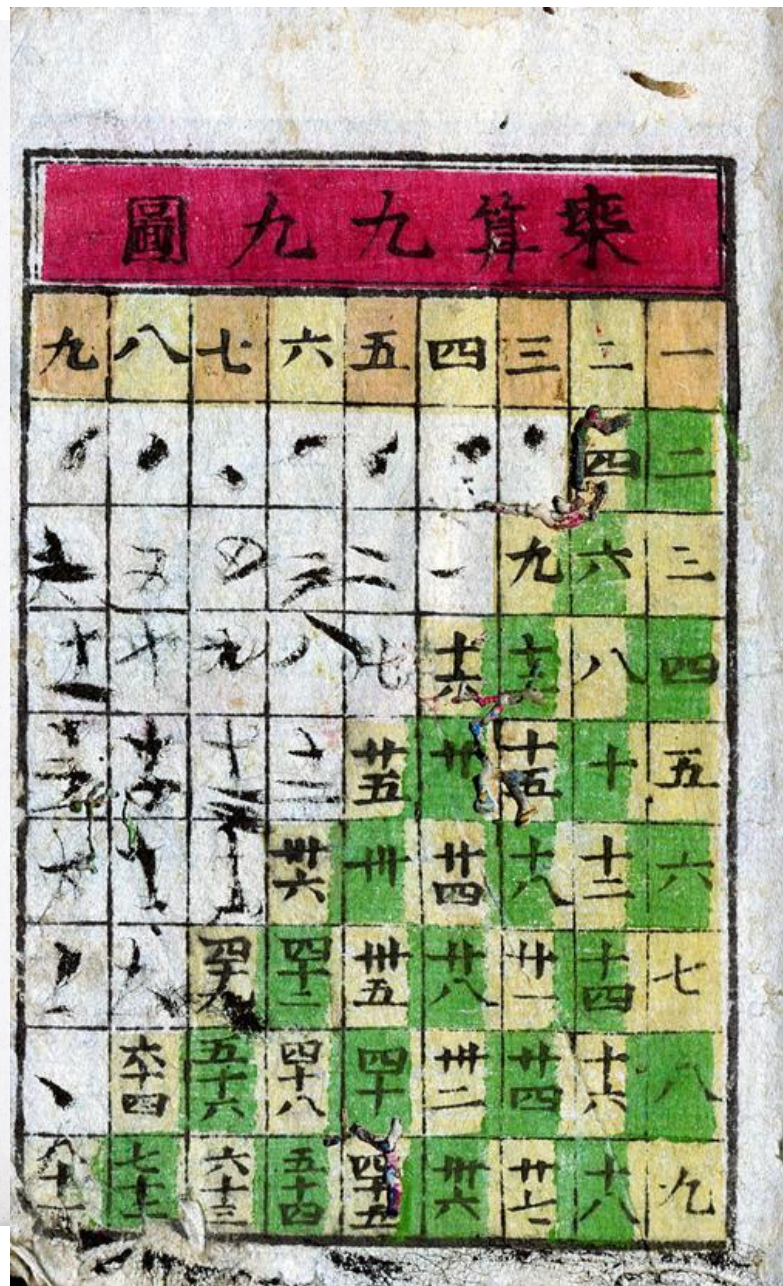


| 圖字數算  |     |      |     | 圖字數 |   |   |  | 五十音ノ圖 |   |   |   | 五十音ノ圖<br>わがまの<br>おとこ |
|-------|-----|------|-----|-----|---|---|--|-------|---|---|---|----------------------|
| 8     | 4   | 0    |     | 十   | 五 | 〇 |  | ニ     | ナ | シ | キ | イ                    |
| 9     | 5   | 1    |     | 百   | 六 | 一 |  | ス     | ツ | ズ | ク | ウ                    |
| 10    | 6   | 2    |     | 千   | 七 | 二 |  | ネ     | ウ | セ | ケ | エ                    |
|       | 7   | 3    |     | 万   | 八 | 三 |  | パ     | ト | ソ | コ | オ                    |
|       |     |      |     | 億   | 九 | 四 |  |       |   |   |   |                      |
| 圖字數理羅 |     |      |     |     |   |   |  |       |   |   |   |                      |
| L     | IX  | V    | I   |     |   |   |  | ワ     | ラ | ヤ | マ | ハ                    |
| C     | X   | VI   | II  |     |   |   |  | 井     | リ | イ | 三 | ヒ                    |
| D     | XI  | VII  | III |     |   |   |  | ウ     | ル | エ | ム | フ                    |
| M     | XII | VIII | IV  |     |   |   |  | エ     | レ | エ | メ | ヘ                    |
|       |     |      |     |     |   |   |  | ラ     | ロ | ヨ | モ | ホ                    |

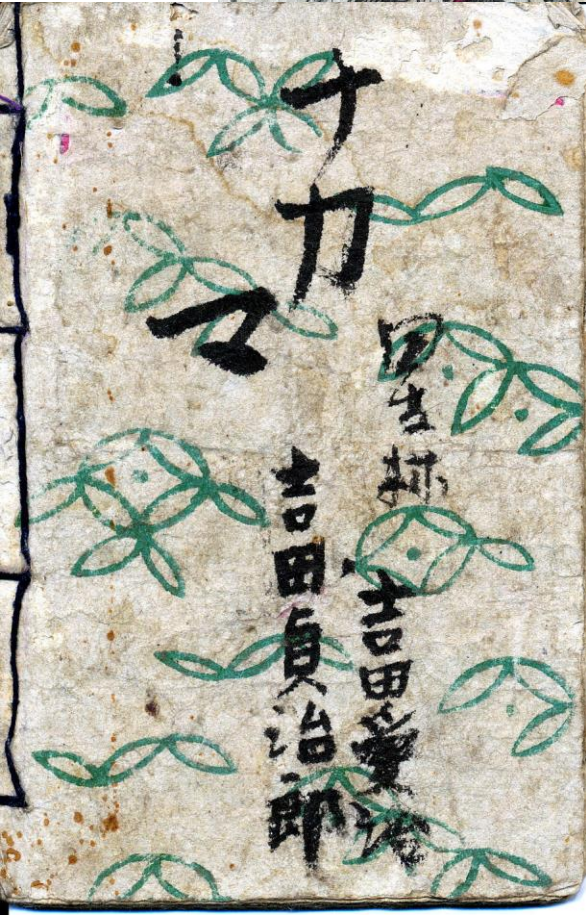
| 圖波呂伊 |   |   |   |   |   |
|------|---|---|---|---|---|
| み    | こ | る | れ | り | い |
| し    | は | の | う | ぬ | ろ |
| ゑ    | て | た | つ | る | は |
| ひ    | あ | く | ね | を | に |
| も    | さ | や | な | あ | ほ |
| せ    | き | ま | ら | か | へ |
| す    | ゆ | け | む | よ | と |
| ん    | め | ふ | う | た | ち |











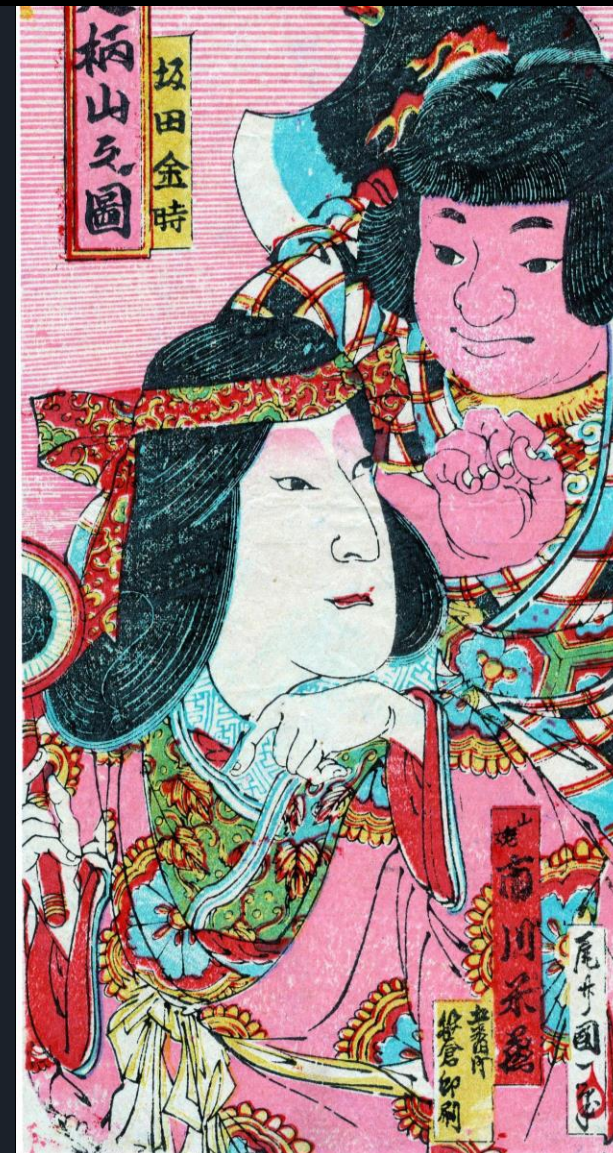
裏表紙





# 売薬版画

- ・ 薬と印刷物との類縁
- ・ オマケの図版ではあるが地方では貴重
- ・ コンパクトな大きさ









# 学校文化（単語図）の浸透

世間一般にどのように教科書が受けとめられていたか

## 1 開化なにわ土産の例

必ずしも子どもだけが対象ではない

世間に単語図が周知されていることが前提のしやれ

## 2 売薬版画の例

薬売りのオマケの図像

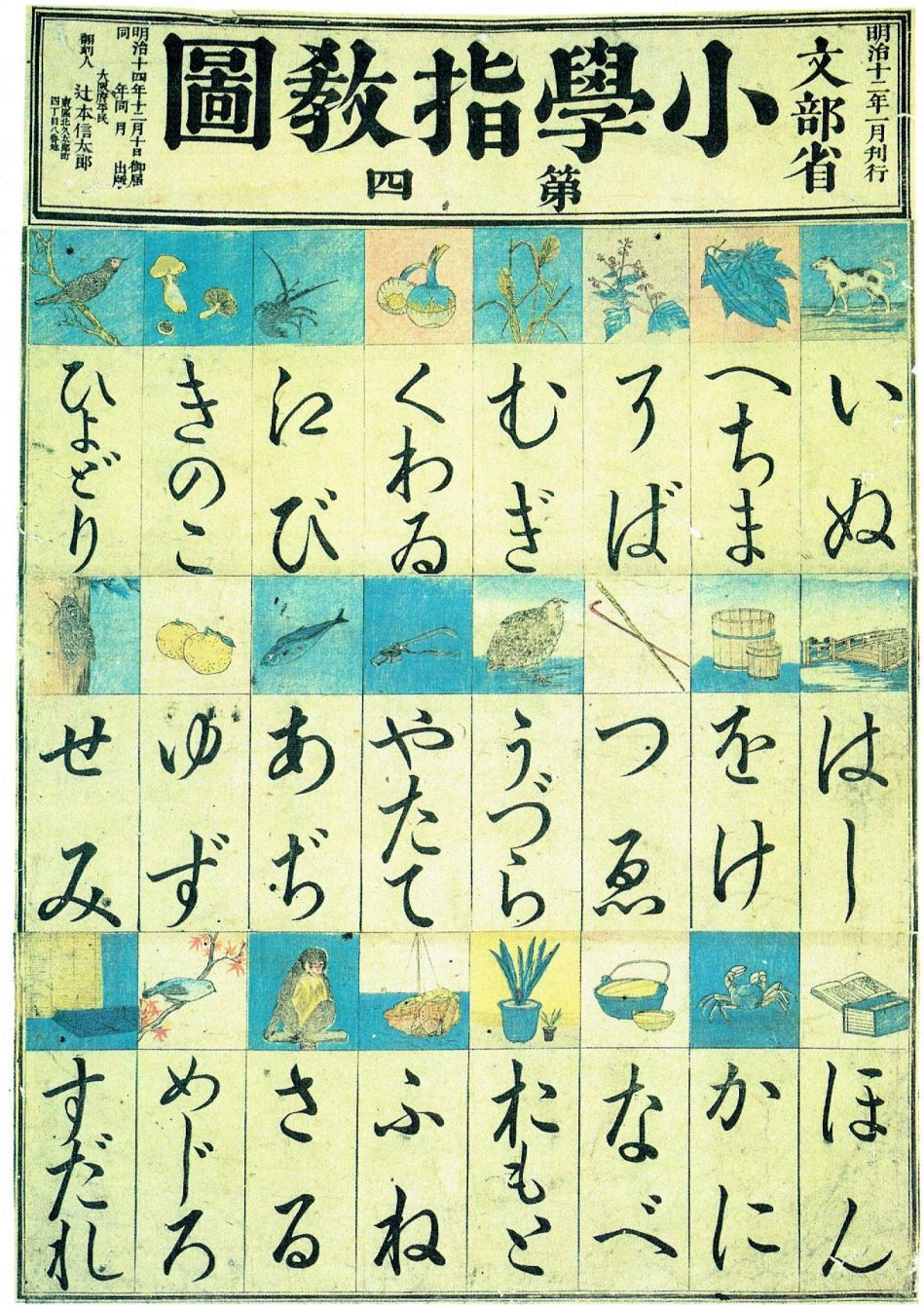
喜ばれない物は配れない

全国的に直接訪問して配布された↓文明開化・近代学校へのあこがれの配布



明治十二年に文部省は、新しい掛  
図を作成する。

それまでの「単語図」に替わるも  
のが、「**小学指教図**」である。



小学指教図 第四

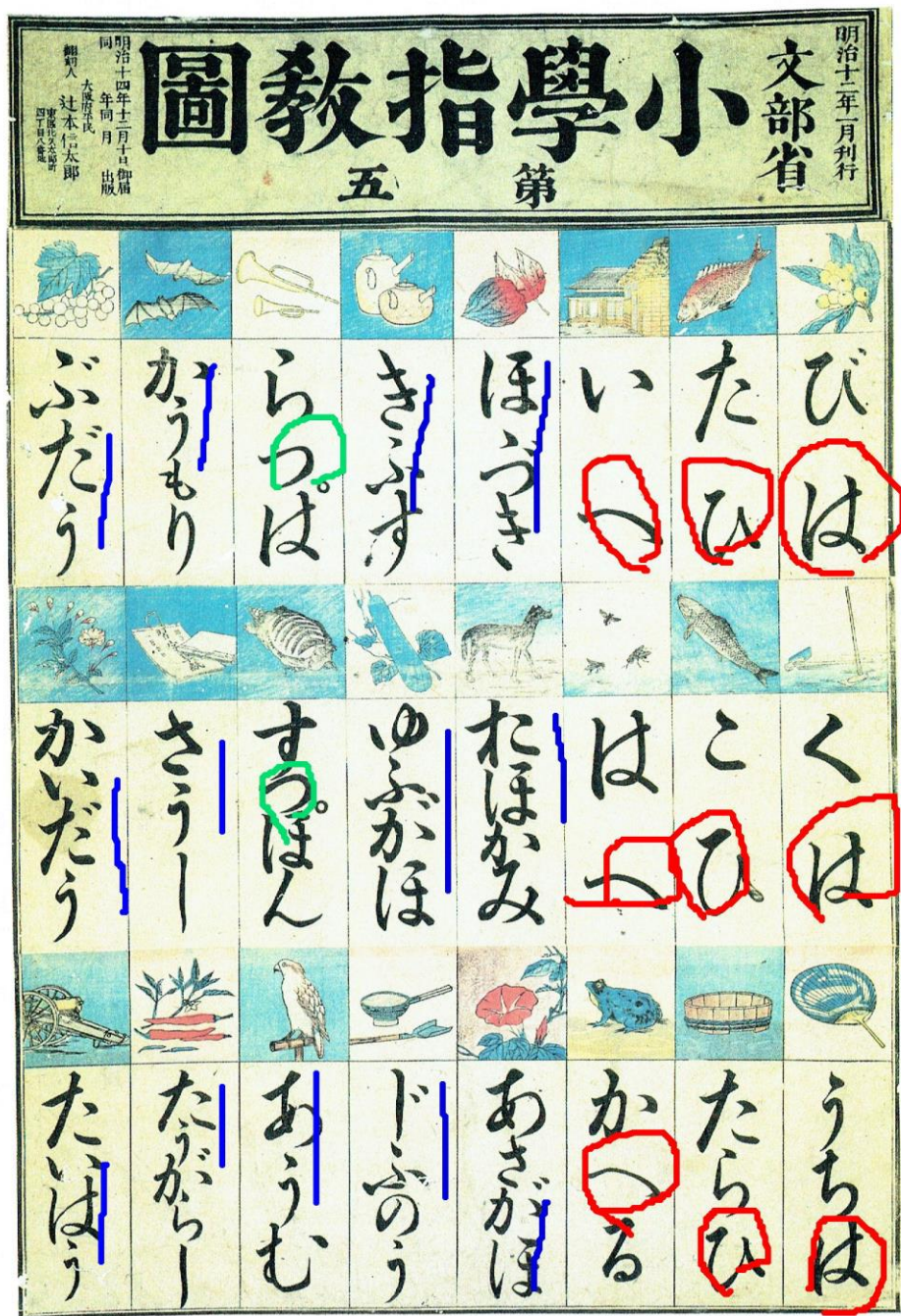
タテ73.5cm・ヨコ50cm 開明学校所蔵

小学指教図第四がそれまでの単語図第一・第二に相当

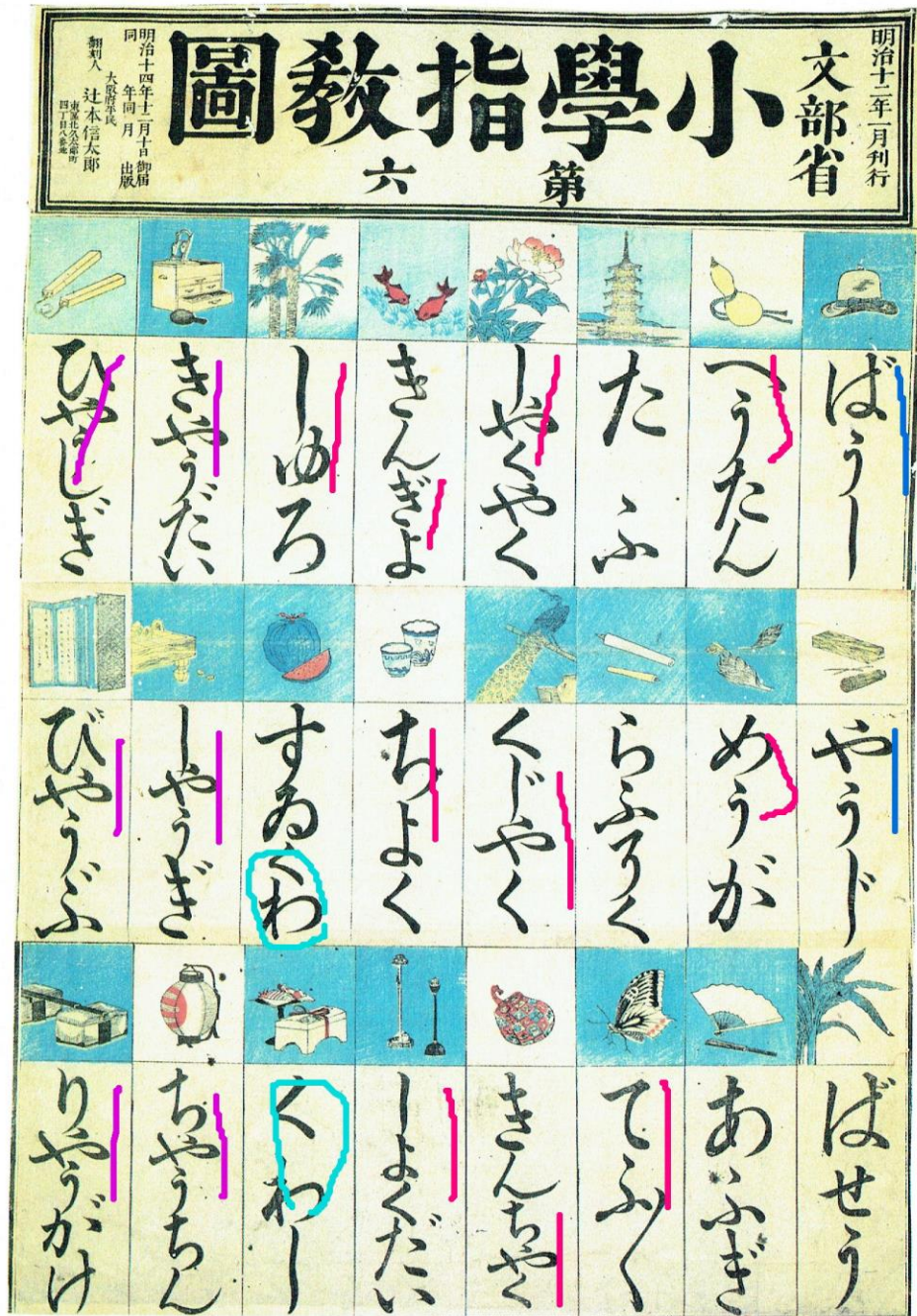
開明学校所蔵 掛図形態としてはほとんど残っていない  
『文部省掛図総覧』東京書籍、より



続く第五第六は 八行音・長音・拗音・拗長音の表記



小学指教図 第五  
タテ71cm・ヨコ50.5cm 開明学校所蔵



小学指教図 第六  
タテ72.5cm・ヨコ50cm 開明学校所蔵

では、遡って 第四の構成原理は何か？




この二四の単語の選択原理は何でしょう？





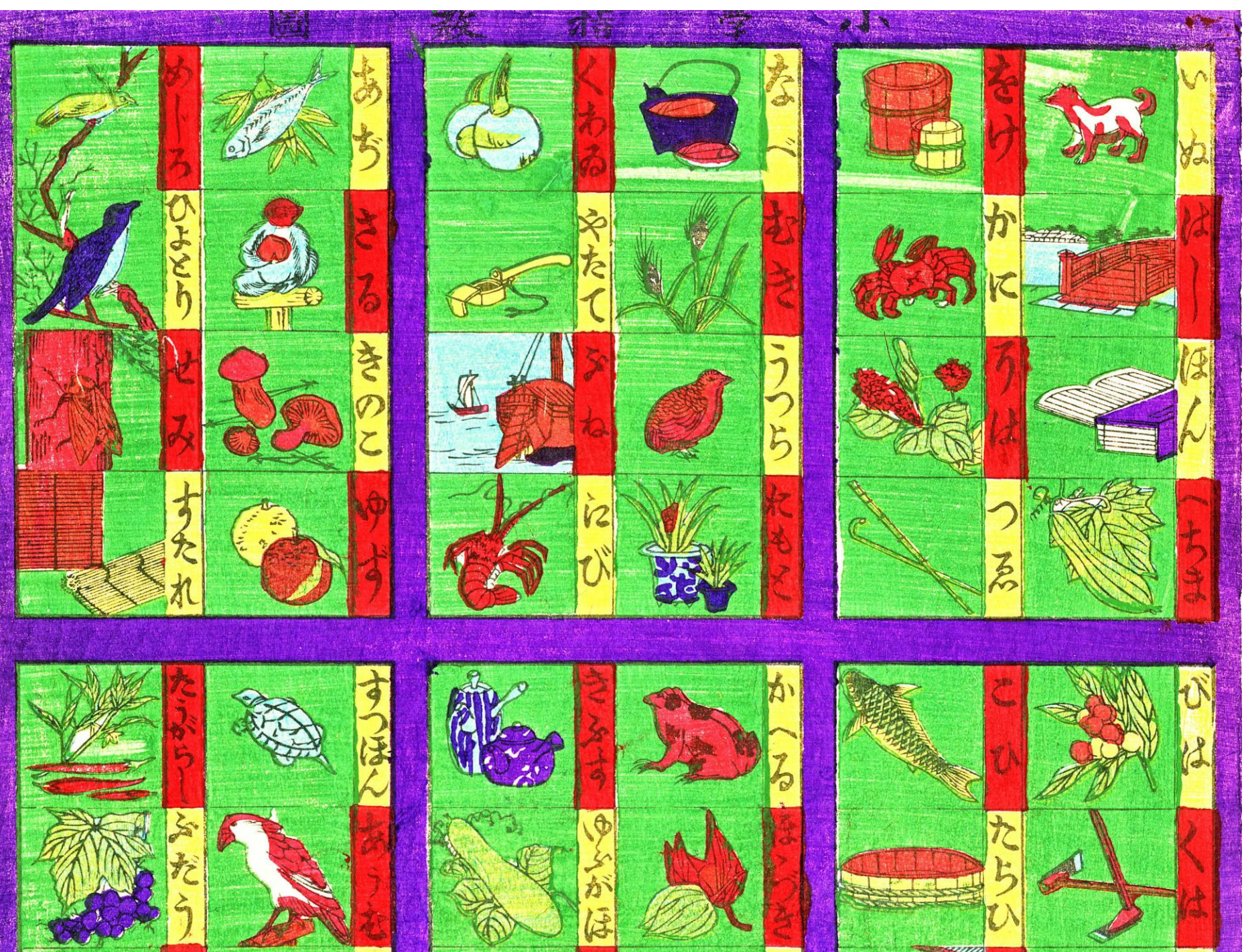
# 小 學 第 指

# 教 四 圖

|  |  |   |   |  |   |
|--|--|---|---|--|---|
|  <p>め<br/>どろ</p>   |  <p>あ<br/>ぢ</p>   |  <p>く<br/>わめ</p>  |  <p>な<br/>べ</p>    |  <p>を<br/>け</p>   |  <p>い<br/>ぬ</p>    |
|  <p>ひ<br/>よどり</p>  |  <p>さ<br/>る</p>   |  <p>や<br/>たて</p>  |  <p>む<br/>ぎ</p>    |  <p>か<br/>に</p>   |  <p>は<br/>し</p>    |
|  <p>せ<br/>み</p>   |  <p>き<br/>のこ</p> |  <p>ふ<br/>ね</p>  |  <p>う<br/>づら</p>  |  <p>り<br/>ば</p>  |  <p>ほ<br/>ん</p>   |
|  <p>す<br/>たは</p> |  <p>ゆ<br/>す</p> |  <p>江<br/>び</p> |  <p>わ<br/>もと</p> |  <p>つ<br/>ゑ</p> |  <p>へ<br/>ちま</p> |



小学指教図の  
おもちゃ絵  
ももちろん刊  
行されている



濁点正確  
なべ  
えび  
あぢ  
ゆず  
めじろ

濁点不正確  
そは  
むぎ  
うつら  
ひよとり  
すたれ





既習のいろはを使って単語を読む  
「いぬ」から「すだれ」

混在

仮名遣いの指導

「びは」「くは」から「あさがほ」



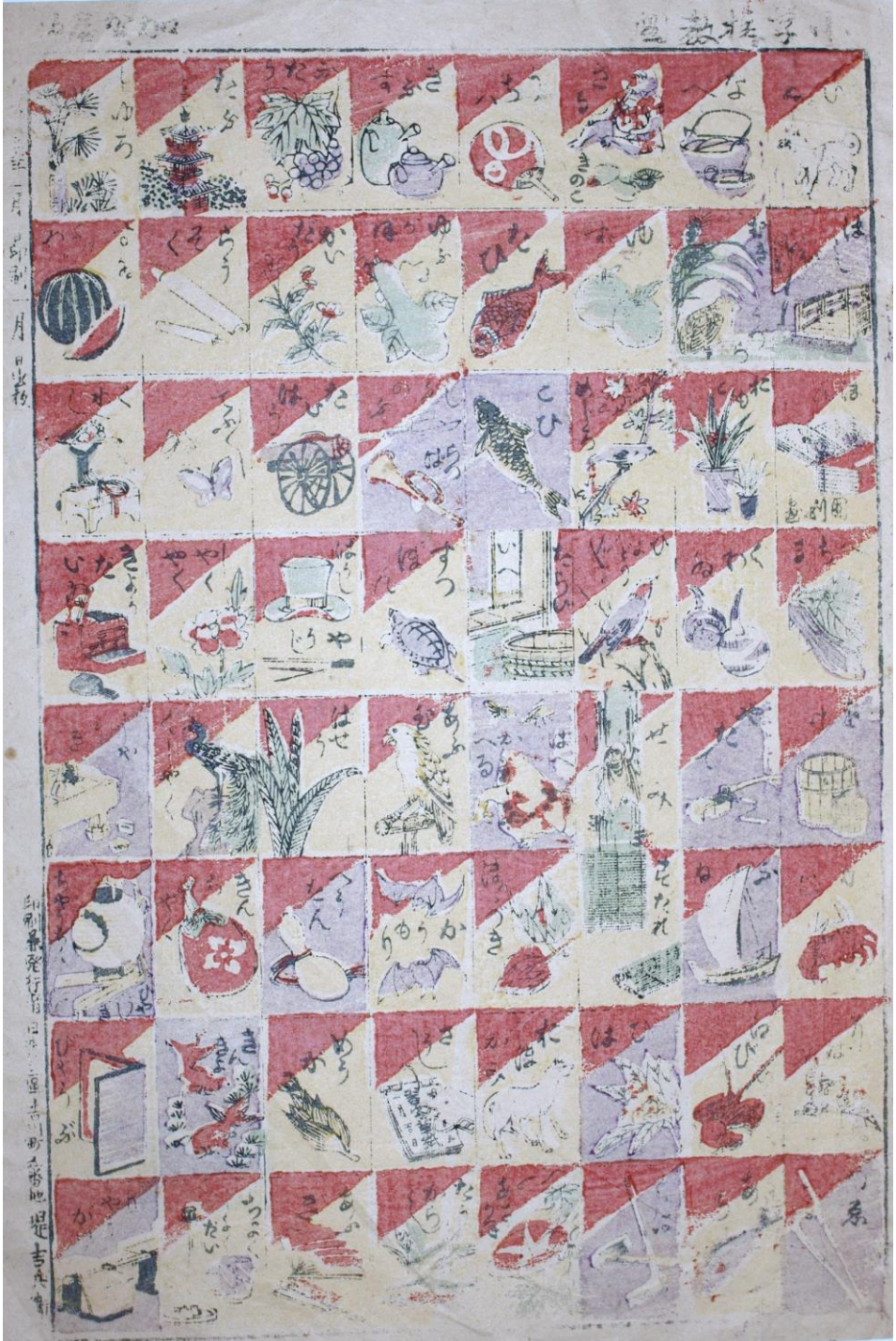


小学教授図

おもちゃ絵

加賀吉版

堤吉兵衛発売



小学指教図の全単語を押し込んだため二単語  
が一つの枠の中に登場するコマがいくつかあ  
る↓カード化して学習に使うことは困難



別の原理の単語図（入門期教材）

東京府庁編『小学読本』明治21年 文部省検定済

全八冊（一之巻～八之巻） 各学年二冊使用







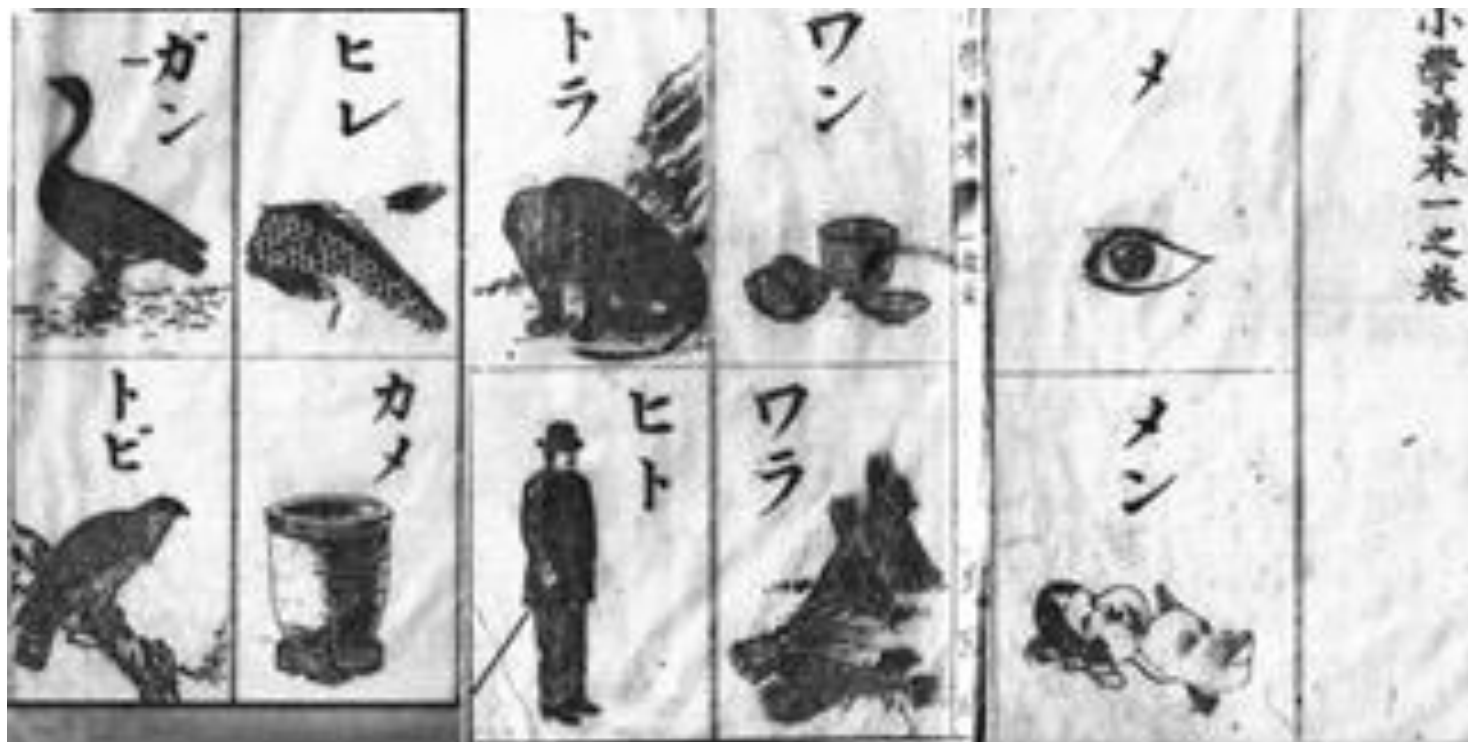
明治19年、湯本武比古が編集した『読書入門』は、『尋常小学読本』巻一から巻七の冒頭に置かれる教科書である。ドイツのボックの作成した*Deutsches Lesebuch*を参考に作られている。つまり、『読書入門』+『尋常小学読本』は、尋常小学校の「読書科」をカバーする、準国定読本として、欧米の最先端の教科書（とりわけドイツ）を参考にしたグローバルスタンダードを目指した国語教科書だったのである。

「ワードメソッド」に踏み込んでいる。片仮名優先。



文部省の『読書入門』『尋常小学読本』に対して、東京府庁編集の『小学読本』は、旧来の路線を少し前進させただけだと評価されるかもしれない。しかし、文字指導の順序性は提示していた。

## 東京府庁編『小学読本』冒頭教材



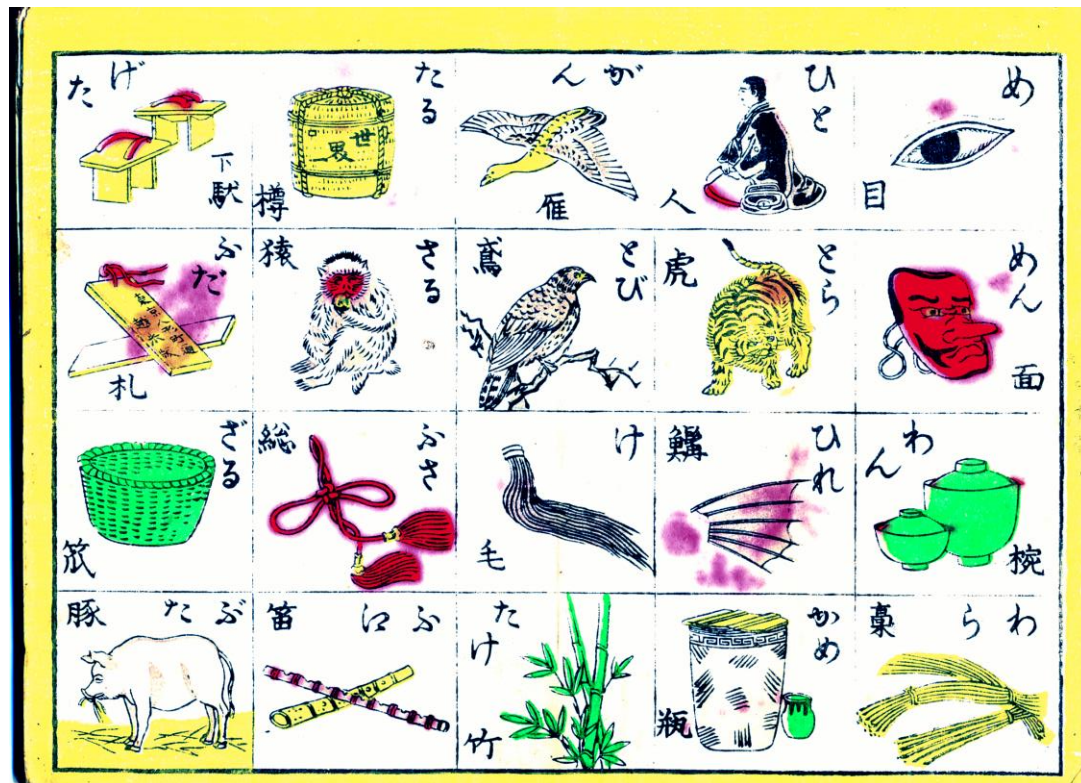
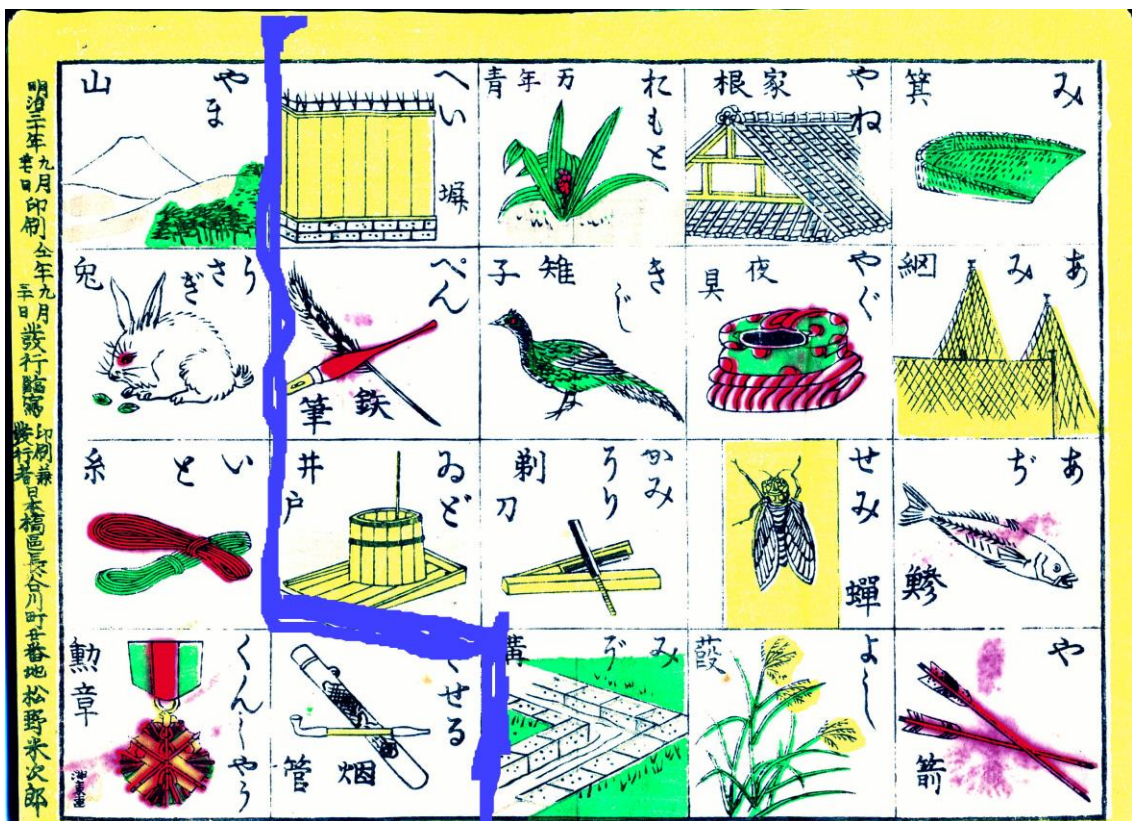
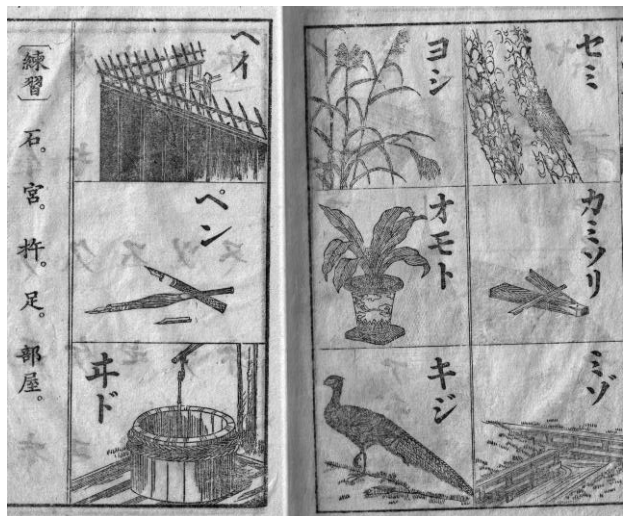
○教授ノ注意 既習ノ仮名ニ、左ノ漢字  
ニ就キ、或ハ実物ヲ示シテ、綴ラシムル等、  
適宜練習セシムベシ。

〔練習〕 比目魚。若布。蘭。土瓶。



東京府の『小学読本』は、「キド」まで。

「きせる」以下は、独自の増加単語。



## 『教育単語のまなび』 明治30年 9月発行

ここには、1頁（↑）と4頁（←）を提示した。小冊子・ボール表紙装。

アレンジ1. 漢字を加えた。

アレンジ2. 順序の変更もある。





明治三十三年 印刷兼発行者 荒川コマ

明治三十三年 印刷兼発行者 荒川コマ

東京府庁編 『小学読本一之巻』と対  
照。小異あり。



メメンワンワラ  
トラヒトヒレ  
カメ



ケタケタルサルフサフエゲタフダ  
ザルブタ

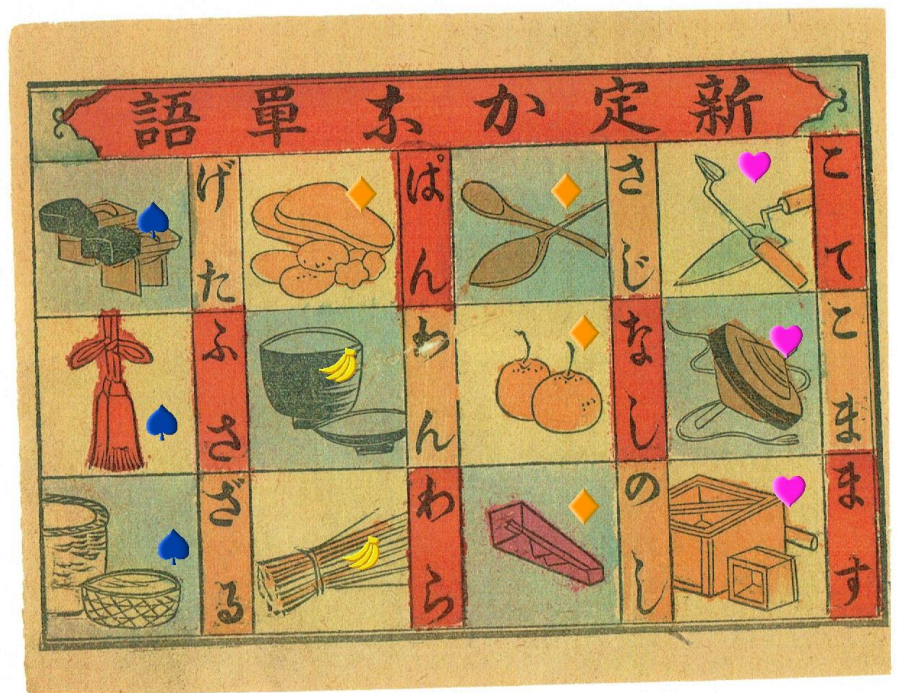
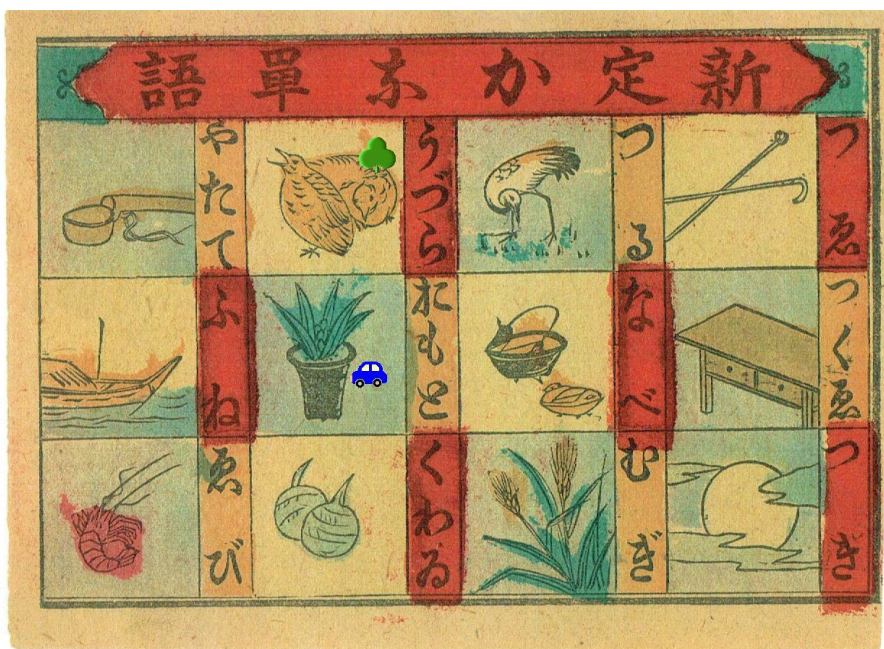
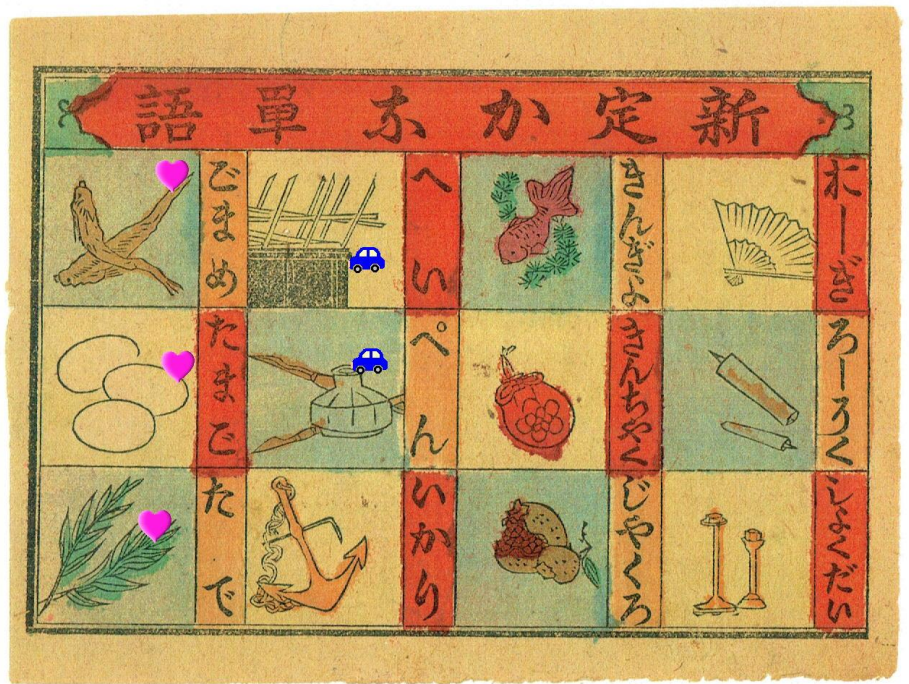
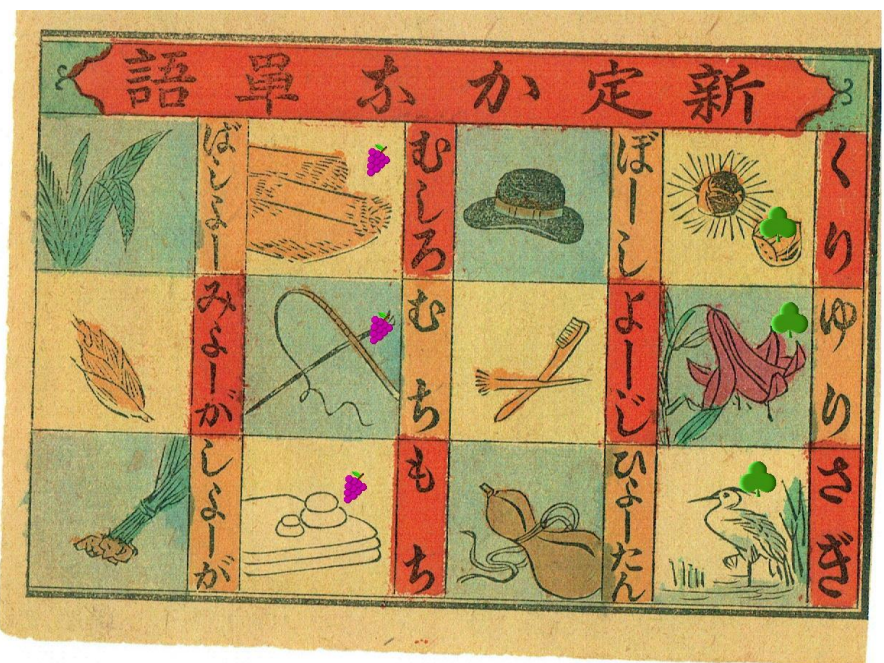


テコテコママスイスイヌゴマメ  
タマゴ  
タボスズ



ハハナシノシヲノ・・・





「新定かな単語」 15 × 12 cmの小さな判型 四枚

\*バラバラではあるが、東京府庁編『小学読本』から単語を採取したように思われる。





子供教育手  
遊び

小学必需品

子どもたちはこんな  
もので遊んでいた。



あれ。あの小さな「単語図」は！



|    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|
| タル | トビ | ヒレ | ワラ | メ  |
| サル | ケ  | カメ | トラ | メン |
| フサ | タケ | ガン | ヒト | ワン |

東京府庁編『小学読本』を正確に採録！





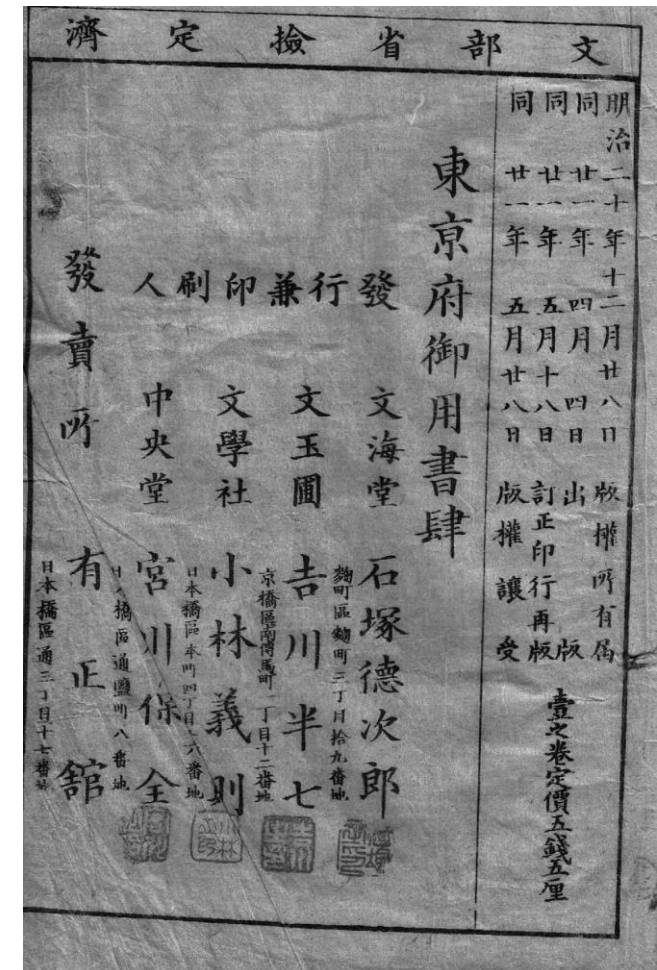
# 仮説：東京府庁編『小学読本』とおもちゃ絵、あるいはその類似印刷物とは親和性が高い？

## なぜか？その理由 可能性

仮説1. 東京府庁編『小学読本』の発行書肆とおもちゃ絵などの発行をしている東京の小出版社との関係が深かった？

仮説2. 官版『読書入門』『尋常小学読本』が模倣を禁じた。

仮説3. 小出版社がたまたま東京府庁編『小学読本』をモデルにした。





# 「単語図」と「おもちゃ絵」 のまとめ

1. 「学校文化」と「補完文化」 正規とインチキ
2. 官版（大手商業資本）と通俗（零細商業資本）
3. 「買って与えられたもの」と「自力で入手したもの」
4. 「書物」＝線条性・順序性と「おもちゃ絵」＝分離性・操作性

それぞれを合わせて「リテラシー形成メディア」